

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査目的

全国的な子どもの体力の状況を把握・分析し、体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査概要

(1) 調査対象

小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒

(2) 児童生徒に対する調査

○児童生徒に対する調査

- ・実技に関する調査（8種目）

【小学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ソフトボール投げ、20mシャトルラン

【中学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ハンドボール投げ、20mシャトルラン（中学校は持久走も可とされているが、福岡市は持久走なし）

- ・質問紙調査（運動習慣・生活習慣、食習慣等）

○学校に対する調査

- ・質問紙調査（子どもの体力向上に係る取組み等）

(3) 調査期間

令和4年4月から7月まで

(4) 留意点

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、上体起こし、20mシャトルランについて、感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い場合には、それらの実施を見合わせることも可能としている。

3 調査結果の集計について

- ・各種目については、それぞれの種目を実施した児童生徒の調査結果を集計
- ・体力合計点については、8種目全てを実施した児童生徒*の調査結果を集計

※8種目全てを実施した児童生徒数

小5男子…3,542名／約6,500名 小5女子…3,531名／約6,500名

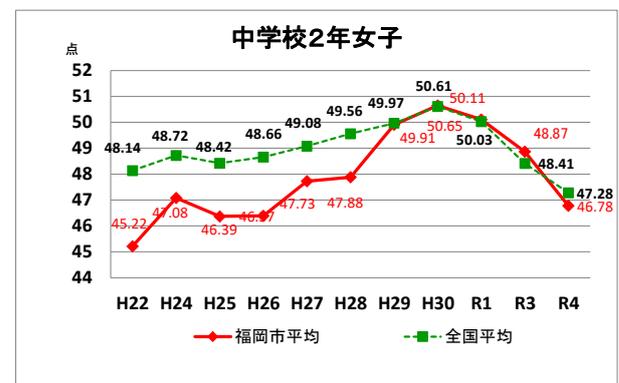
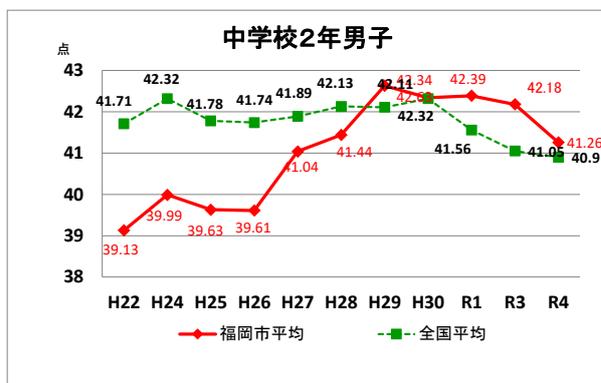
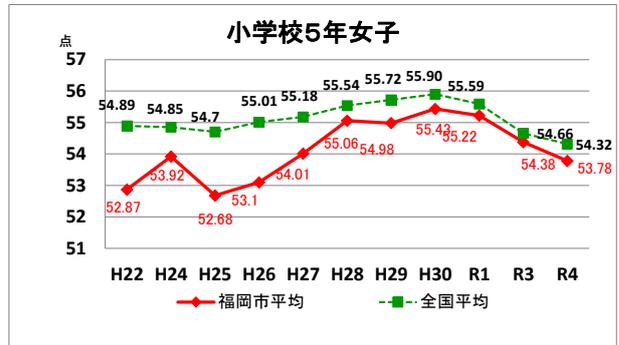
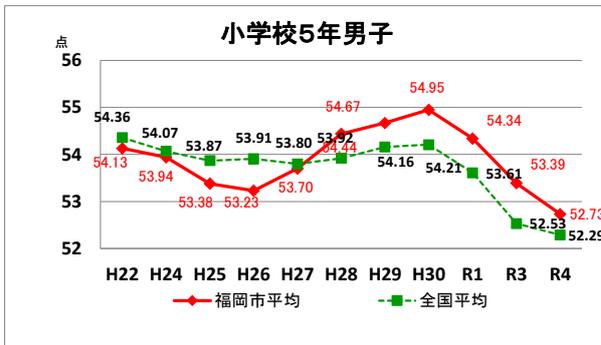
中2男子…4,661名／約5,700名 中2女子…4,621名／約5,400名

4 調査結果の概要について

(1) 実技に関する調査の結果

① 体力合計点の推移

(1 種目 10 点満点、10 点×8 種目＝80 点、得点基準は男女で異なる)



※平成 22 年度、24 年度は抽出調査（小学校 35 校、中学 19 校）

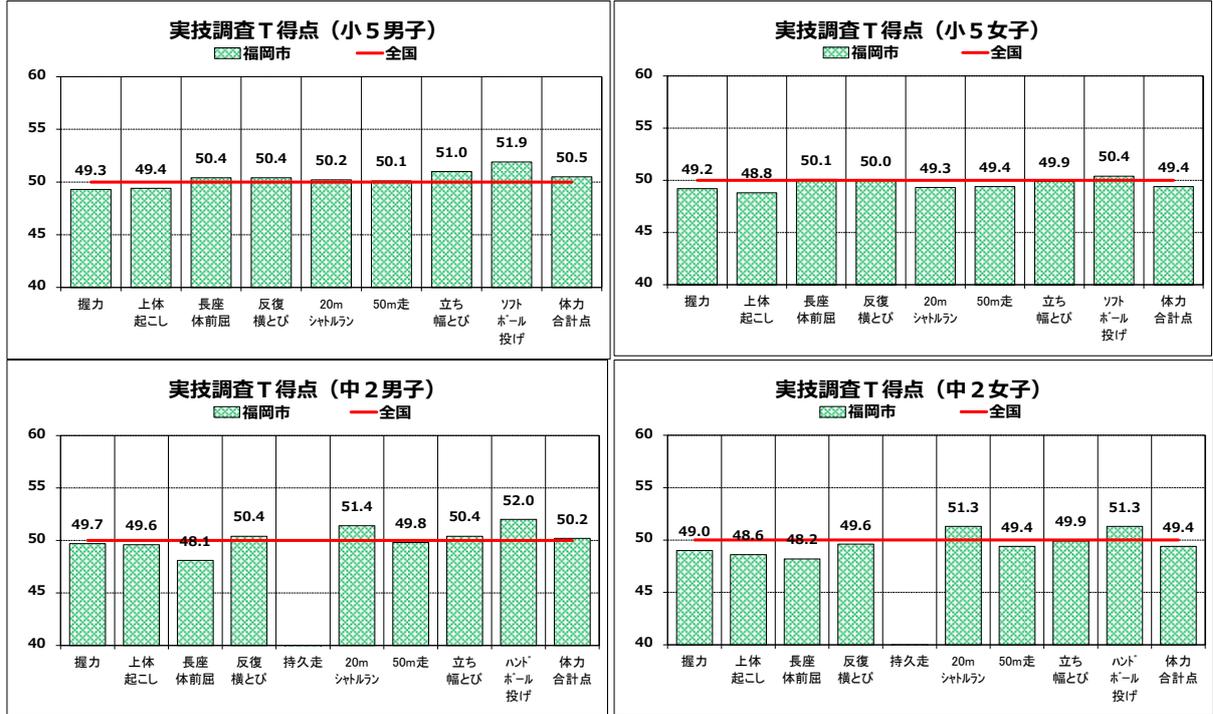
※平成 23 年度、令和 2 年度は調査中止

	男子	女子
小5	全国平均と同程度である +0.44 ポイント	全国平均と同程度である -0.54 ポイント
中2	全国平均と同程度である +0.36 ポイント	全国平均と同程度である -0.5 ポイント

- ・小5、中2ともに、全国平均と比べ同程度である。
- ・小5、中2ともに、令和3年度調査と比べて、全国平均と同様に体力合計点が、低下している。
- ・小中学校ともに、平成29年、平成30年をピークに、近年は下降傾向にある。

②種目別の全国との比較

※T得点：全国の各学年・男女の平均値を50として、各種目を比較しやすくしたもの



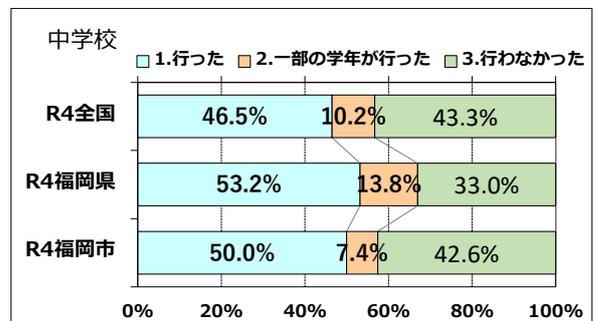
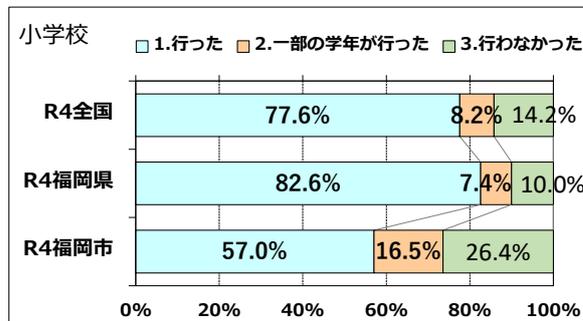
- ・小5男子は、立ち幅とび、ソフトボール投げの2種目で全国平均を上回っている。
- ・小5女子は、上体起こしで全国平均を下回っている。
- ・中2男子は、20mシャトルラン、ハンドボール投げの2種目で全国平均を上回っている。
- ・中2女子は、20mシャトルラン、ハンドボール投げの2種目で全国平均を上回っているが、上体起こし、長座体前屈で全国平均を下回っている。

(2) 質問紙調査の結果について

①学校質問紙

○体育授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組み

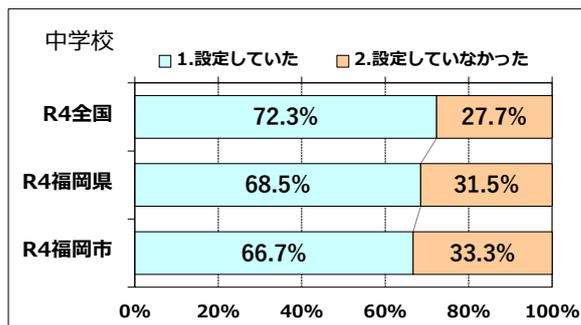
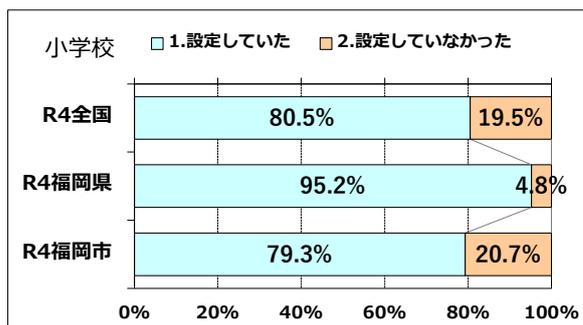
「令和3年度に、体育授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行いましたか。」



- ・取組みを実施している学校の割合について、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均を上回っている。

○学校全体の体力・運動能力向上の目標設定

「令和3年度に、児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定していましたか。」

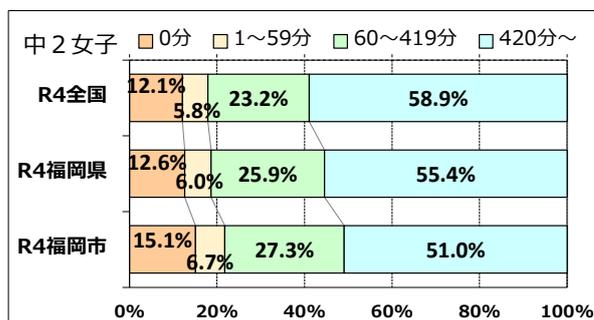
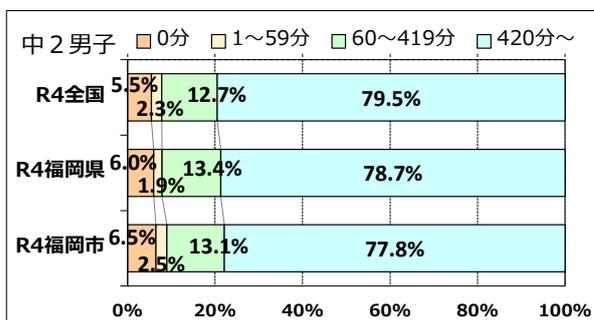
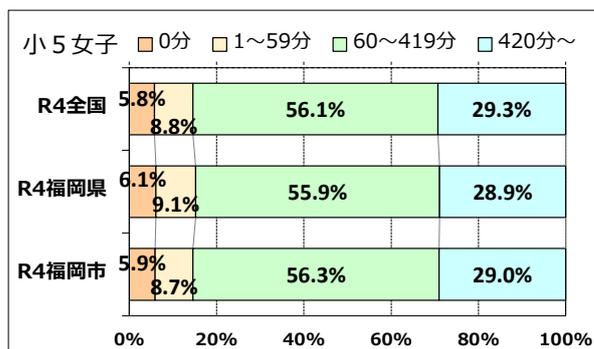
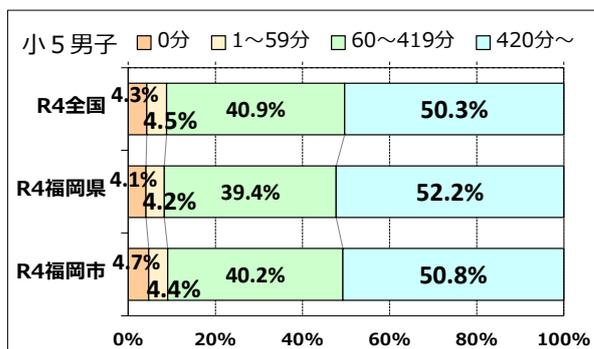


・目標設定を行った学校の割合は、小中学校ともに、全国平均を下回っている。

②児童生徒質問紙

○1週間の総運動時間

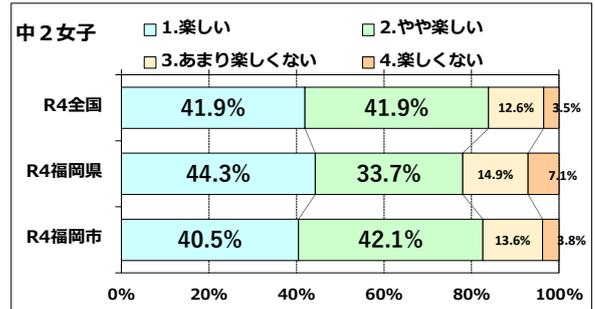
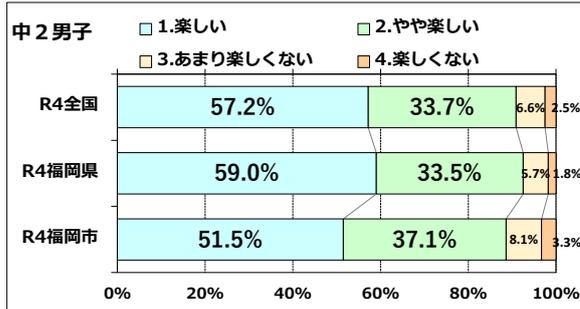
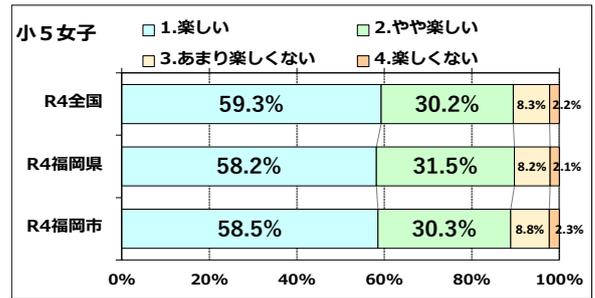
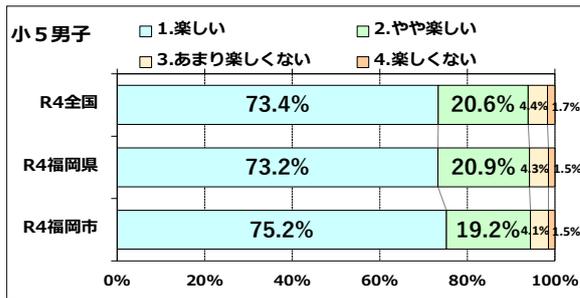
「ふだんの1週間について、学校の体育・保健体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを、合計で1日およそどのくらいの時間していますか。」に対する各曜日の回答の合計。



・小5男女と中2男子では、「60分以上」運動している児童生徒の割合は、全国平均と同程度である。
 ・中2女子では、「60分以上」運動している生徒の割合は、全国平均を下回っている。

○体育授業の楽しさ

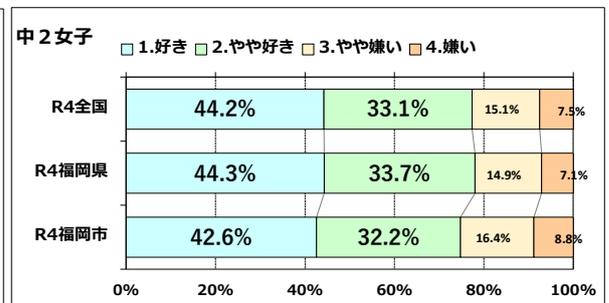
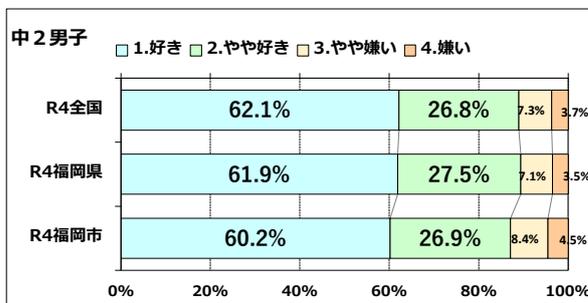
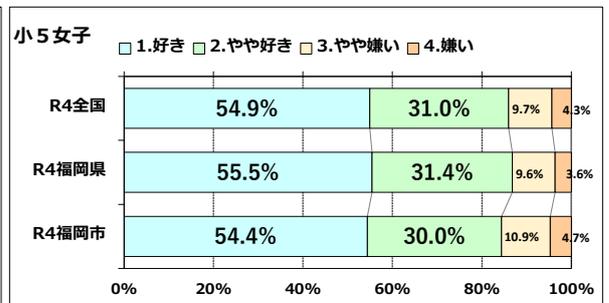
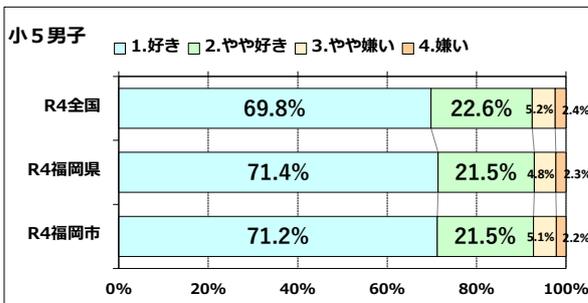
「体育の授業は楽しいですか。」



- ・体育授業の楽しさの肯定的回答率（「楽しい」「ややたのしい」の合計）について、小5男女、中2男女は、全国平均と同程度である。

○運動が好き

「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」



- ・「運動することが好き」の割合について、小5女子は全国平均と同程度、小5男子は全国平均を上回っている。
- ・「運動することが好き」の割合について、中2男女は全国平均を下回っている。

5 令和4年度の取組み

(1) 各学校での取組み

- ・児童生徒の状況等に応じた体力向上の取組みを具現化する「体力向上推進プラン」の作成。プランに基づいた授業改善と体育の授業以外での運動機会の充実に関する取組みの着実に継続的な実施。

(2) 教育委員会の取組み

- ・「体力向上のための指導者研修会」

日常的な運動の機会の充実のための具体的な取組みについて、指導者の実技研修を取り入れた研修会を実施。

※令和4年度…令和4年11月24日に対面で開催

講師：九州産業大学 泉原 嘉郎 氏

演題：指導者なら知っておきたい

コーディネーショントレーニングのこと



- ・「体力向上のための連絡会」

最新のデータを用いた大学教員による体力向上に係る講演の実施。

※令和4年度…令和5年2月2日にオンラインで開催

講師：九州産業大学 泉原 嘉郎 氏

演題：児童生徒の体力向上に向けた取組みについて

- ・体力向上推進委員会の組織的・計画的な取組みを推進し、体力向上の取組み好事例を全市で共有。
- ・小学校において体育科学習実技指導員の派遣を25校に実施。
(ボール運動7校、器械運動17校、陸上運動1校)

(3) 成果と課題

○成果

- ・各研修会では、「知らなかったことをたくさん聞くことができた。」「明日からでも導入できそうだった。」などの感想があり、参加した教員の高い満足度が得られた。
「体力向上のための指導者研修会」に参加した教員の満足度…99%
「体力向上のための連絡会」に参加した教員の満足度…98.2%

○課題

- ・児童生徒が、生涯にわたり、主体的に運動やスポーツに取り組む姿勢をもつことにつながるよう、運動やスポーツに対して楽しいと感じる経験を積み重ね、日常的な運動習慣を確立すること。

6 今後の取組みの方向性

(1) 各学校での取組み

○体育授業の工夫・改善

- ・運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の育成を目指した体育授業の実施
- ・1単位時間において、適切な運動量を確保した体育授業の実施

○日常的な運動習慣の形成につながる取組み

- ・日頃から運動やスポーツをすることの大切さを児童生徒に伝えるとともに、1週間の総運動時間に着目した、体育授業外時間の取組みの充実

(2) 教育委員会としての取組み

○体力向上につながる研修

- ・児童生徒が、自分の体と心の状況を客観的に把握し、体を動かすことの効果を感じることを通して、運動やスポーツに対する意欲を高めることのできる授業づくりに関する研修会を実施。

○体力向上推進委員会の充実

- ・児童生徒が、運動やスポーツに対して楽しいと感じる経験を積み重ねることができ、取組みの好事例を全市に発信するため、体力向上推進委員会の組織的・計画的な運営。